

科目ナンバー	SEM-3-004-ky			科目名	課題演習II (鈴木)		
教員名	鈴木 鉄忠			開講年度学期	2020年度 後期	単位数	2
概要	<p>本演習では、群馬地域やイタリア等の国内外のフィールドに学びながら、「スローな」(持続可能で身の丈にあった)地域づくりをテーマにします。それによって、現代社会の「当たり前」「これが正しい」を考え直し、別の方法で考える想像力／創造力と、実際に行動する力を身につけることを目標にします。</p> <p>これまでの社会は、「成果」「成功」「成長」という1つのゴールを目指してひた走ってきました。そうした「足し算による進歩」は、輝かしい結末というより、「気候変動」「少子高齢化」「過疎化」「無縁社会」といった大きな問題から、新たな「貧困」「格差」「排除」、そして「心の病」「依存症」「孤独」といった一人一人の生活危機まで及んでいます。こうした「正解のない問題」に答えるためには、「〇〇〇(ex. 車やスマホやスタバ)がなければ×××ができない」という「当たり前」「思い込み」を一度棚上げして、「〇〇〇がなくても△△△はできる」という「引き算による進歩」へ発想転換する柔軟さと、別の選択肢を考え出して行動に移る力が重要になってきます。ではどうしたらよいのでしょうか？</p> <p>「よりゆっくり、より深く、より柔らかく」——イタリアの環境活動家アレックス・ランゲルは、「正解のない問題」に対する心構えをこのように表現しました。なかでも「よりゆっくり」という「スロー」は、「遅さ」だけでなく、「持続可能であること」や「適度なサイズ」という意味を含み、「スローフード」「スローシティ」「スローライフ」といった新たな取り組みと結びつき、スピード重視の社会とは別の発想と行動を創造するキーワードになっています。</p> <p>前期のフィールドワークとライブラリーワーク(文献読解)を踏まえて、後期では、「スローな地域づくり」をテーマにしたゼミ論文の作成を行います。調査研究の進展に応じて、個人ないしグループで発表および議論を重ねていきます。ゼミで取り組む地域プロジェクトをシャロン祭や学外で発表していきます。</p> <p>最終的には、10000字以上のゼミ論文を各自が仕上げます。</p> <p>また大学外での交流や地域イベントへの積極的な参加を求めます。</p>						
到達目標	<p>到達目標は、4つあります。</p> <p>①現場(フィールド)から、新たな発見や知見を導き出す力を身につけること、②必要な文献や情報を探し出すライブラリーワークの力を身につけること、③論文の書き方、プレゼンテーションの方法を身につけること、④グループのなかで他者と自分の能力を活かす体験を共有すること。</p>						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識	○	自己を理解する力	○	伝え合う力	○	分析し、思考する力	○
共生のための態度	○	自己を抑制する力	○	協働する力	○	構想し、実行する力	○
グローバル・マインド	○	主体性	○	関係を構築する力	○	実践的スキル	○
教授法及び課題のフィードバック方法	フィールドワークとライブラリーワークをめぐる受講生の報告とディスカッションを中心に進めます 。担当教員は、受講生同士の学びを促したり、深めたりするための「つなぎ役」(メディエーター)として議論に参加します。 発表や議論へのコメントや助言については、ゼミ内外の時間を通じて適宜フィードバックしていきます。						
アクティブラーニング		○	サービスラーニング			課題解決型学修	○
受講条件 前提科目	この課題演習では、文献や資料を「読み」、必要な情報を「探し」、事例と関連する現場を「歩き」、現場の人の話を「聴き」、グループで「話し合い」、レポートに「書き上げる」ことで、社会で必要とされる総合的な応答力を身に着けることを目標とします。そのため「ちょっと大変」と感じるかもしれませんが、社会で活躍する「将来の自分への投資」と考え、積極的に演習に取り組むことを求めます。						
アセスメントポリシー及び評価方法	ゼミ内外の活動への参加25%、ゼミ内外での発表25%、ゼミ論文の作成50%によって、総合的に評価します。						
教材	以下の2冊は、論文作成の手引きとして各自で入手してください。 小笠原喜康(2018)『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 小笠原喜康／片岡則夫(2019)『中高生のための論文入門』講談社現代新書						
参考図書	以下は論文の書き方、プレゼンテーションの方法に関する参考図書および副読本として、図書館や書店で入手するなどして、積極的に予習復習に役立ててください。 河野哲也(2018)『レポート・論文の書き方入門 第4版』慶応義塾大学出版会 野矢茂樹(2006)『入門! 論理学』中公新書 大野晋(1999)『日本語練習帳』岩波新書 宮内泰介(2004)『自分で調べる技術—市民のための調査入門』岩波書店						
1回 ガイダンス 研究テーマと報告順番の決定							

内容・スケジュール	2回 論文通信①(仮題目・目次、概要)の提出と発表
	3回 個人発表とディスカッション①
	4回 個人発表とディスカッション②
	5回 個人発表とディスカッション③
	6回 論文通信②(読書ノート5冊とキーワード集)の提出と発表
	7回 個人発表とディスカッション④
	8回 個人発表とディスカッション⑤
	9回 個人発表とディスカッション⑥
	10回 論文通信③(途中経過の草案)の提出と発表
	11回 個人発表とディスカッション⑦
	12回 個人発表とディスカッション⑧
	13回 ゼミ論文の仮完成版の提出
	14回 ゼミ論文の完成版の提出
	15回 まとめとリフレクション

Number	SEM-3-004-ky	Subject	Junior Specialty Seminar II		
Name	鈴木 鉄忠 (Suzuki Tetsutada)	Year and Semester	Second semester for 2020	Credits	2
Course Outline	<p>In this seminar, with the theme of "slowness", we thoroughly examine the "problem without answer" generated by modern society, unraveling various complicated intertwined problems, and putting "response" different from "correct answer". The way to proceed is to read all the texts in the previous term. Participants must always read and report on books, deepen their concern concerning themselves with "slowness and modern society", prepare for fieldwork during the summer vacation period and writing seminar for later semester.</p>				